

第1学年1組 保健体育科学習指導案

指導者 教諭 松本 勇樹

- 1 日時 平成29年11月1日(水) 5校時
- 2 単元名 【球技】「ゴール型」(ハンドボール)
- 3 単元について

- (1) 球技「ゴール型」とは、個人やチームの能力に応じて作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手より多くの得点を競い合うゲームである。ハンドボールは、相対する2チームが、走・跳・投を中心とした動きの中で、ボールを奪い合い、いろいろなパスや思い切ったシュートで攻めたり、相手に応じた防御などで守ったりして勝敗を争うところにある楽しさがある。スピード感あふれるパスやダイナミックなシュートなどは他の競技に見られない醍醐味を味わうことができる。また、集団で作戦を立てて試合に臨む課程や結果に楽しさを味わうこともできる。ルールも比較的簡単で誰もが参加しやすく、技能の段階に応じてプレーすることができるので、ゴール型競技を学習する上で理想的な競技である。
- (2) 単元について小学校では、ゴール型スポーツにおいて、サッカーとバスケットボールを学習している。塩江町はハンドボールが盛んな町であるため、スポーツ少年団で経験している生徒が数名いる。部活動も盛んで、ハンドボールを見たことがない生徒はほとんどいない。本校の生徒は体育授業に関する事前アンケートにおいて「体育の授業が楽しい」と答えた生徒は、80%以上、「授業で喜びや達成感を味わったことがある」という生徒は70%以上の結果となった。普段の学習からも積極的に授業に取り組む生徒の姿がよく見られる。その一方で、「球技が好きである」、「授業で協力して、考え工夫ができています」という問いには50%以下の回答率であった。またハンドボールに対してのイメージは「難しい」、「怖い」、「痛い」等のマイナスイメージが多く、良い印象を持っていない生徒が多数いるのが現実である。このような結果から、ハンドボールの授業で、「ハンドボールの本当の楽しさ」や「体育の授業で学び合うことの大切さ」について学習することを課題とし、授業に取り組もうと考えた。
- (3) ハンドボールの授業を通して、「ハンドボールの本当の楽しさへの気づき」を目標に学習を進めていきたい。そのために、「課題の共有、確認の工夫」(自立性・有能感)、「交流の工夫」(関係性)の2つに焦点をあて、指導にあたる。「課題の共有、確認の工夫」では、基本的なボール操作のポイントや交流で出た課題や戦術などの振り返りがすぐに行えるよう、視覚的に配慮した板書の工夫をする。「交流の工夫」では、MTM(マッチ・トレーニング・マッチ)での授業展開を行い、ゲーム中心の授業の中から、チームで課題の発見、戦術の確認などを行い、成功したときの喜びに気付かせる。そのとき、課題や戦術が見つかりやすいよう、ICTを活用し、映像からチームの交流をより活性化できるよう工夫する。チームは男女混合の4人で構成する。技能の習熟度の異なるメンバーで構成し、単元を通して、「ノーマークでシュートをするためにはどうすればよいか」という課題を設定する。個人の技能である基本的なボール操作については、基礎練習のドリル学習を楽しみながら毎時間行うことにより、技能の上達を図る。板書のポイントなどを再確認し、自分の技能の課題に気づかせ、自分の課題を意識して取り組み、ドリル学習を充実したものにする。1年次では、ゲームの中で攻撃側が数的有利である状況の中から、どのように攻めることが効果的であるかを考えさせ、交流の中で課題や戦術が積極的に出てくるようにする。また、映像などから、アウトナンバーの味方の使い方、空間の使い方の重要性に気付かせる。これらの学習を通してハンドボールの技術の上達とともに、協力して学び合うことの大切さを学習し、3年間を通してハンドボールの本当の楽しさに気づいてもらいたいと考える。

4 単元の目標

- ルールやマナーを守り、互いの健康安全に留意し、チームで協力しながら自主的に練習やゲームを行うことができる。
- ノーマークでシュートをするためのボール操作やボールを持たないときの動きなどポイントを見つけている。
- 基本的なボール操作を身につけ、味方へ正確にパスを送ることやゴール型の特性を理解し、ボールを持っていないときの動きが取れる。
- ハンドボールの成り立ち、技術の名称や行い方を理解できる。

5 単元の学習指導計画

〔3年間を見据えた学習指導計画〕

1 年	2 年	3 年
基本的なボール操作・空間へ走り込むなど空間を使ってゲームを展開		安定したボール操作・空間を作り出す動きでゲームを展開
・ハーフコートの攻撃数的有利な状況で正確に攻撃を成功させることを学ぶ。 ・4対4のオールコートで空間を使い、ボールを持っていない時の動きを学ぶ。	・1年次で学習したことに、さらにスピードを意識した攻撃を学ぶ。 ・オールコートで数的有利な状況から、早く正確に攻撃を展開することを学ぶ。 ・素早い攻守の切り替えから必然的に数的有利を作り攻撃を展開する。	・7対7の実際のハンドボールのゲームを行い、積み上げたボール操作や空間を使う戦術を駆使して、ゲームに取り組み、ハンドボールの本当の楽しさを学ぶ。

〔第1学年学習指導計画・○は本時〕

	学習目標	学習内容
1	・ハンドボールのルールを知り、ゲームに挑戦してみよう。	・オリエンテーション ・試しゲーム
2 3	・基本的なボール操作（パス・ドリブル・シュート）を身につけよう。	・パス，ドリブル，シュートについて学ぶ ・パスゲームを行う。
4	・有効なスペースを見つけて攻撃しよう。	・基礎練習 ・ゲーム分析 ・簡易ゲーム
⑤	・有効なスペースを作って攻撃しよう。	・基礎練習 ・ゲーム分析 ・ゲーム
6 7	・相手のポジションに応じたよりよい攻撃方法を考えよう！	・基礎練習 ・ゲーム分析 ・簡易ゲーム（攻撃練習）
8	・チームの特性をいかしゲームに取り組もう。	・基礎練習 ・ゲーム分析 ・ゲーム

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
・ハンドボールのルールやマナーを守り，積極的に取り組もうとしている。 ・グループ活動で話し合い活動に積極的に参加しようとしている。 ・用具や練習方法などの安全を確かめ，健康安全に留意している。	・ノーマークでシュートするためのボール操作やボールを持たないときの動きなどポイントを見つけている。 ・グループ活動を通して，自己やチームの課題を見つけている。	・ボールを持っていないときの動きを工夫できる。 ・基本的なボール操作がスムーズに行うことができる。	・技能を身に付けるためのポイントを理解している。 ・ハンドボールの特性や技術の名称，行い方を理解している。

7 本時の学習指導計画

(1)目標

①ハンドボールのルールやマナーを守り，ゲームやグループ学習に積極的に取り組むことができる。
(関心・意欲・態度)

②空間を作り出す工夫やボールを持たないときの動きなどをデータや ICT を使いポイントを見つけてることができる。(思考・判断)

(2)本時の評価

関心・意欲・態度	思考・判断
評価 A ・積極的に練習やゲームに取り組もうとしている。また，なかまにアドバイスや助言を行おうとしている。 評価 C の改善の手立て ・練習やゲーム，グループ学習に消極的な生徒には，ゲームの中で意図的に賞賛したり，活躍できる場を設定したりする。	評価 A ・空間を作り出す工夫やボールを持たないときの動きのポイントを見つけることができる。それをなかまに表現したり，具体的な改善策を考えたりすることができる。 評価 C ・ポイントを見つけることができない生徒には，映像やデータを見るとき具体的な視点をアドバイスする。

(3)準備物

ハンドボール，ゴール（卓球フェンス），ゼッケン 4 色，得点板，ホワイトボード，タブレット
体育ファイル，電子ホイッスル

(4)学習指導過程

学習指導内容及び学習活動	指導上の留意点 ○教師の支援及び配慮事項 ◎交流活動 ●評価 [評価方法]
1 チームごとに準備運動，基礎練習を行う。 （１）体操・ストレッチ （２）基礎練習（パス・シュート・２対１） 2 簡易ゲームに取り組む。（３分間×２ゲーム） ・攻撃数的有利 ・４対４（守備チーム１名はキーパー） ・グリッドあり 3 学習課題を確認する。	○ 集合，整列させ，健康観察を行い，チームごとに準備運動，基礎練習を行うよう指示する。 ○ 見学者には記録者や観察者として，伝え合う活動や学び合う活動にできる範囲で参加するように指示する。 ○ 前時の学習について確認してから簡易ゲームに取り組ませる。 ○ 空いた場所が狭くなっているということに気付かせるために，最初のゲームで困ったことを確認する。
有効なスペースを作って攻撃しよう！	
4 グループでゲーム分析を行う。（１０分） ・映像確認 ・個人の意見を考える ・グループ討議 5 簡易ゲームに取り組む。（３分×２ゲーム） ・攻撃数的有利 ・４対４（守備チーム１名はキーパー） ・グリッドあり 6 まとめを行う。	◎ ICT や作戦板を使い，成功映像と失敗映像から，チームの課題を解決する工夫を考える。 ○ 自分の意見を持ってグループ活動に取り組めるよう個人の意見を考える時間をとる。 ○ グループの課題解決のための作戦を一つ決め，次のゲームに取り組めるよう指示する。 ● 課題解決のための自分の意見をしっかり持っている。〔ワークシート・観察〕 ○ チームの作戦を意識しながらゲームに取り組めるように，指示する。 ● ルールやマナーを守り，積極的に活動できている。〔観察〕 ○ ゲームで実践し，気づいたことを話し合わせ，新たな課題に気づかせる。 ○ 課題の解決につながる動きが見られた時には称賛する。課題の解決につながる動きが見られない時には，励ましの声を掛けたり，助言を行ったりする。 ● グループ活動に積極的に参加している。〔観察〕